

『クリスチャンの夫として②』

'23/03/19

聖書箇所: エペソ人への手紙 5章 25-33節 (新約 p.380)



ここ何回か…、私たちは、「クリスチャンが持つべき家庭」というものについて学んできています。神様は、この聖書全体を通して、私たちに、実に様々なことについて教えてくださっています。例えば、罪からの救い…、永遠の裁きからの救いは、その中でも最も重要なものですが、それだけではありません！ そういったようなことは、今ここで、改めて、詳しく申し上げる必要はないでしょう…。

しかし、残念なことは、時々…、救われたクリスチャンが、自分が救われたことだけで満足してしまって、それ以上、みことばを学んで、「その学んだみことばを実行していこう！ 神様に少しでも喜ばれるよう成長していこう！」としないことです…。

皆さんもよくご存知のように、**Ⅱテモテ 3:15-17**のみことばは、こう教えてくれています。『**15 また、幼いころから聖書に親しんで来たことを知っているからです。聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができます。16 聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。17 それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。**』

⇒皆さん、ここでははっきりと教えられてるように、聖書のみことばは、全知全能なる、聖い神様の靈感によって書かれたものです。だから、みことばには、様々な教えや戒めなどがあるわけで…、だから、みことばは私たちのことを正しく矯正させることができるし、義の訓練のためにも有益なのです。このみことばによって私たちは霊的に成長させられ…、『十分に整えられた者』となっていくことができます。

ですから…、どうか、皆さん…。まずは、何よりも、聖書のみことばを学んでいく者であってください。決して、救われただけで満足するのではなく…、せつかく神様が救ってくださったのだから、益々、神様の与えてくださったみことばを学んで…、救いと同時に、神様の助けによって成長していける恵みというものも、一緒に味わう者であってください！

命題: クリスチャンの夫は、どのように自分の妻を愛すべき？

先週、私たちは、クリスチャンの夫が、その家庭にあって、どのように生きていくべきなのか？どのようにして、自分の妻を愛していくべきなのか？ということ学びました…。そういったことを私たちが学び…、また、実践していくことによって、益々、私たちの家族が神様の前に祝福されていくことを…、また、皆さんが喜びと祝福に満ちた家庭を築いていくことを願います…。まずは、初めに、今回与えられた聖書のみことばをお読みいたします。どうぞ、エペソ 5:25-33 をご覧ください。

<エペソ 5:25-33>

25 夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。

26 キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもち、教会をきよめて聖なるものとするためであり、

27 ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。

28 そのように、夫も自分の妻を自分のからだのように愛さなければなりません。自分の妻を愛する者は自分を愛しているのです。

29 だれも自分の身を憎んだ者はいません。かえって、これを養い育てます。それはキリストが教会をそうされたのと同じです。

30 私たちはキリストのからだの部分だからです。

31 「それゆえ、人は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となる。」

32 この奥義は偉大です。私は、キリストと教会とをさして言っているのです。

33 それはそうとして、あなたがたも、おのおの自分の妻を自分と同様に愛しなさい。妻もまた自分の夫を敬いなさい。

I・妻を、神の愛でもって愛する！(25節)

先週、この5:25から学んだことは、妻を、「神の愛」でもって愛するということでした…。この25-33節で、みことばがクリスチャンの夫に対して命じていることは、そのことだけ…、つまり、自分の妻を神の愛でもって愛しなさい！ということだけでした。…と言いましても、肝心の、神の愛というものがどういったものであるのかが分からないと、この命令の意味するところが、はっきりとは分かり得ません…。

そこで、先週は、「神の愛」が持つ特徴を、3つのポイントでもって説明させていただきました。皆さん、覚えてくださっています？ ⇒①まず第1に、神の愛とは自己犠牲的な愛でした…。神の愛で愛するとは、その相手のために、自分自身を犠牲にしてまで、相手に尽くすような愛のことなのです。②2つ目に、神の愛とは、全く無条件のものでした…。そこには、一切の条件が無いのです。例え、自分を嫌うような者であっても…、あるいは、自分に刃を向けるような者であっても…、そんな者さえも愛そうとするような…、広く大きな愛なのです。③そうして、3つ目は、感情ではなく、その者の意志…、選択によるということでした。つまり、神の愛でもって、自分の妻を…、あるいは、人を愛するということは、自分が愛したいから愛する…、自分が愛せる時にだけ愛するというものではありません。例え、相手がどのような者であろうと…、あるいはまた、「自分の感情が愛したくない！ 顔も見たくない！」と叫ぶような時にも、愛そうとするような…、そんな強い意志の愛を言うのです…。

II・妻の霊的成長のために助力していく！(26-27節)

そこまでが前回に学んだ内容でした…。その次に、このみことばが教えてくれていることは、夫が自分の妻を愛すべき「目標」です。クリスチャンの夫は、一体、何を目標に妻を愛するべきなのでしょう？ ⇒それは、妻の“霊的成長”のために助力していく、ということです。妻が、クリスチャンとして、益々、成熟した女性となっていくことができるように、クリスチャンの夫は、そういったことを助けていくべきなのです…。

●キリストの十字架には、ちゃんとした目的があった！

どうぞ、先程お読みした、26-27節をご覧ください。『26 キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもち、教会をきよめて聖なるものとするためであり、27 ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。』…つまり、①まずは、『教会をきよめて聖なるものとするため』と、②もう1つは、その『教会を、ご自分の前に立たせるため』であった、とみことばは教えます…。このように…、キリストが教会を愛し、教会のためにご自身を捧げてくださったのには、ちゃんとした目標・目的があったのです！

それと同じように、クリスチャンの夫である私たちも、しっかりと…、明確な目標を持って、自分の妻や愛する家族と接していく必要があります…。クリスチャンの夫である皆さん…、皆さんは、ご自分の奥さんやお子さんたちが、将来、どのように成長していられることを願っていらっしゃいます？…また、その目標のために、皆さんは今、どのように考え…、行動していらっしゃるでしょう？

みことばは教えるのです、イエス様が、あのようなむごたらしい十字架に、自ら進んでかかれたのには、

ちゃんとした目的があり…、また、そのイエス様が、それほどまでして、私たちが罪から救ってくださったのにも明確な目的がある。って…。それは、そのはずです！だって、何の目的も、大した理由も無しに…、一体、誰が大きな犠牲を支払うのでしょうか？

● あなたを救ってくださった、イエス様の 目的 とは？

ここ 26 節のみことばは、『教会をきよめて聖なるものとするため…』と教えてくれています。「きよめる…」も、「聖なるものとする…」も、同じような気がしますが、でも、原語のギリシヤ語を観察してみると、まず、ここで、『きよめて…』と訳されてある言葉(καθαρίζω)は、「倫理的や道徳的に清める」というような意味があります。そして、後半にある『聖なるものとする…』と訳されてある方の言葉(ἀγιάζω)は、「聖別する、神専用として選び分ける」というような意味です。…ですから、このみことばは、教会(＝イエス様を信じて救われた者たち)が清められて、神のために選び分けられる…、そういったことのために、イエス様がいのちを捨てて、あの罪より贖ってくださったと言うのです。

皆さん…、イエス様は、ただ、皆さんを罪の裁きである永遠の地獄から救うため“だけ”のために、あの十字架にかかって…、死んで、よみがえってくださったわけではありません！…どうぞ、I ペテロ 2:24 をご覧ください。『そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。』⇒皆さん、お聞きになってくださいました？イエス様は、何のために、自分から進んで十字架にかかって、私たちの罪の贖いをなしてくださったとありました？…罪の裁きや、罪の力から解放されて、自分勝手に生きようになるためですか？違いますでしょ！『私たちが罪を離れ、義のために生きるため…』なのです！

神様は、私たちが罪から離れ、きよくなっていくために…、そういったことのために、このみことばを与えてくださったのです！だから、今日のみことばである、エペソ 5:26 にも、『みことばにより、水の洗いをもって…』とあるのです。新改訳聖書の、この箇所をご覧くださいと、さも、私たちが成長させられるためには、『みことば』以外に、何かもう一つ、私たちのことを洗い清めてくれるものが必要のように見受けられるかも知れません。しかし、この箇所は、決してそういったことを教えようとしているではありません…。原語のギリシヤ語を見てみると、主なものは、どちらかと言うと、『水の洗いをもって…』という方で、その、『水の洗い』が、『みことばに』よってなされる、ということが説明されているようです。ですから、口語訳聖書もそのように訳していますし、新共同訳聖書の方ももっと分かりやすいと思います。ちなみに、新共同訳では、「言葉を伴う水の洗いによって…」と翻訳されています。つまり、聖書のみことばが私たちのことを洗い清めてくれる！という感じですよ。

ですから、今日のメッセージの冒頭で紹介した、II テモテ 3:15-17 でも、『15 …聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができます。』ということと…、『17 それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。』⇒つまりは、霊的な成長…、クリスチャンとしての成熟のことです。ここで言われていることは、私たちが天に挙げられて…、罪から完全に解放される時のことではありません。今のこと…、現在のことであるのは明らかです！また、I ペテロ 2:2 でも、『生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。』と勧められているように、この聖書のみことばが、私や皆さんのことを救いへと導き…、それだけでなく、よりキリストに似た者へと成長させていくくれるのです！

ところで、皆さんは、そういったことをご存知でした？みことばが、私たちクリスチャンを成長させてくれる、

って…。間違いなく、そういったことは、もう既に、皆さん、よくご存知のはずです！でも…、じゃあ、皆さんは、自分を成長させてくれる…、その神様からのみことばを、どの程度、真剣に学び…、また、どのように、そのみことばと接してこられました？

確かに、神様からのお言葉である、聖書のみことばは、私たちが霊的に成長させてくれます…。しかし、果たして…、みことばによって成長させられていくために、私たちは週に1度、礼拝に出席して、礼拝のメッセージを聞くだけで十分なのでしょうか？…こんなことを言うのも何ですが、時々、私が耳にするのは、ほんの少し前に聞いたメッセージの箇所や内容を忘れてしまっているという現実です…。果たして、こんなことで…、みことばは、罪に汚れきっている私たちのことを清めることができるのでしょうか？

どうか、皆さん、誤解しないでくださいね！私は、聖書が持つ偉大な力や、神様の全能性を疑っているわけではありません…。しかし、みことばは、このようにも教えてくれています…。例えば、どうぞ、詩篇 119 篇をご覧ください。詩篇 119:1-2、『1 幸いなことよ。全き道を行く人々、【主】のみおしえによって歩む人々。2 幸いなことよ。主のさとしを守り、心を尽くして主を尋ね求める人々。』⇒このみことばは、どういった人物が、『幸い』だと教えてくれています？⇒『全き道を行く人々、主のみおしえによって歩む人々…』ですよ！また、続いて…、『主のさとしを守り』る者とも教えられてあります。…つまり、皆さん。聖書のみことばを、ただ聞いているだけでは不十分で、そのみことばを実践しているかどうか、ということのみことばは教えてくれているのではないのでしょうか？

また、どうぞ、9-11 節もご覧ください。『9 どのようにして若い人は自分の道をきよく保てるでしょうか。あなたのことばに従ってそれを守ることです。10 私は心を尽くしてあなたを尋ね求めています。どうか私が、あなたの仰せから迷い出ないようにしてください。11 あなたに罪を犯さないため、私は、あなたのことばを心にたくわえました。』なんていう風に教えてくれています…。どうすることが、私たちを変えると教えてくれています？⇒『みことばに従ってそれを守ること…』であり、また、「みことばを心に蓄える」ことであるとありますでしょ！

どうぞ、もう1か所、ルカ 11:28 をご覧ください。イエス様は、ここで、どんな人物が幸いであると教えてくださっています？『…いや、幸いなのは、神のことばを聞いてそれを守る人たちです。』⇒ここで、イエス様は、私たちが聖書のみことばを聞くだけで良いと教えてくださいました？いいえ…。みことばを聞いて、尚且つ、それを守る者たち！ですよ。そのように…、神様は、このみことばを用いて、皆さんをより聖い者へ…、よりキリストへ似た者へと変え続けていくくれるのです…。

どうぞ、今度は、今日のみことばの 27 節をご覧ください。ここでは、『ご自身で、しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるため…』だと教えてくれています。イエス様が、『教会を、ご自分の前に立たせる…』とあるように、これは未来に起こるとされている出来事です。こういったことから…、救われた者たちをより聖い者へと変えていくという…、神様の御働きが、今なお続いているということが分かります…。

実は、ここで、『教会を、ご自分の前に立たせる…』とありますが、この表現には、花嫁が花婿の前に立たされる…、というような意味があります。聖書は、間違いなく、私たち救われた者である教会が、いつの日か必ず、花婿であるイエス様の前に立つ！ということを知っています。例えば、黙示録 19:7-8 では、『7 私たちは喜び楽しみ、神をほめたたえよう。小羊の婚姻の時が来て、花嫁はその用意ができたのだから。8 花嫁は、光り輝く、きよい麻布(あさぬの)の衣を着ることを許された。その麻布とは、聖徒たちの正しい行いである。』ということが教えられてあります。ここに出てくる『小羊』とはイエス・キリストを…、また、花嫁は教会を表わしています。だから…、今日のみことばの 27 節にも、『しみや、しわや、そのようなものの何一つない…』というような言葉があるのです。つまり、キリストの花嫁として迎えられるような者は、

しみやしわ…、つまり、罪による汚れが残ってはいならないわけで、これらの言葉は皆、花嫁の美しさを表わしています。しかも、その美しさは…、27 節に、『聖く傷のないものとなつた栄光の教会…』とあるように、この美しさは、外面的なものだけでなく…、内面、つまり、霊的な面にまで及ぶのです…。

有名な【ヨハネ 1:9 のみことばは、こう教えてくれています。『もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。』⇒ここで教えられてあるように…、確かに、神様は、私たちを悪から清めてくださいます。しかし、そのためには、私たちがしっかりと、自分自身の罪を認め…、それを神様の前で、正しく悔い改め…、そして、それを告白して歩んでいくことが必要なのではないでしょうか？…でも、果たして、私たちは、そういったことを日々の生活において、どれほど、忠実に出来ているのでしょうか？

Ⅲ・夫は、妻のことを、自分自身のように愛すべき！（28-33 節）

どうぞ、最後に、3つ目のポイントをご覧ください。クリスチャンの夫は、自分の妻のことを、“自分自身”のように愛すべき、であります。今から、そういったことを確認していきましょう。

●クリスチャンの夫が なす べきこと

どうぞ、もう一度、今日のみことばの 28 節前半をご覧ください。『そのように、夫も自分の妻を自分のからだのように愛さなければなりません。…』⇒ここ 28 節でも、『そのように…』とあって…、私たちの1番のご主人である、イエス様のことを模範としなさい！イエス様を模範として、他者を愛してやりなさい！ということが繰り返されています。

今先程読んだみことばと同じようなことを、イエス様も教えてくださったことを、皆さんはよくご存知だろうと思います。例えば、マルコ 12:28-31、『28 律法学者がひとり来て、その議論を聞いていたが、イエスがみごとに答えられたのを知って、イエスに尋ねた。『すべての命令の中で、どれが一番たいせつですか。』29 イエスは答えられた。『一番たいせつなのはこれです。『イスラエルよ。聞け。われらの神である主は、唯一の主である。30 心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』31 次にはこれです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』この二つより大事な命令は、ほかにありません。』

⇒イエス様は、このように…、たくさんの命令を御与えになった神様の真意というべきものを説明してくださいました…。ここで、イエス様がおっしゃられた、『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』という教えは、まさに、エペソ 5:28 のみことばと通じるものがあるんじゃないでしょうか？…だって、夫にとっての…、自分の奥さんというのは、1番身近にいる『隣人』じゃないですか！

でも、今さっき見た、『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』という教えと、今日のみことばの 28 節の、『そのように、夫も自分の妻を自分のからだのように愛さなければなりません。…』という教えとは、かなり、似ています。…しかし、結構違っている点もあります。それは、その理由に関する部分です。…今先程見た、マルコ 12 章の教えが大切なのは、それが、神様からの重要な命令だからです。

でも、今日のみことばの 28 節、夫が自分の妻を愛するのは、自分が妻と、『一体』(エペソ 5:31)であるからです。…でしょ？…今日のみことばの、29 節後半に、『それはキリストが教会をそうされたのと同じです。』とあって、『キリストの教会との関係』が、『夫と妻との関係』に当てはめられています、その件に関しては、先程、説明させていただきました…。私たち教会は皆、イエス様の花嫁なのです。…それと、実は、神によって救われた私たちクリスチャンは、現代におけるキリストの体の一部分なのです！そういったことは、ここエペソ 5:30 だけでなく、1 コリント 12 章やエペソ 4 章、コロサイ 1 章などでも教えられています。

ですから、そういった意味においても…、クリスチャンの夫は自分の奥さんをいたわり…、愛していくことが絶対必要です。もしも…、夫がそういったことを忘れてしまって、自分の奥さんのことをないがしろにしてしまうと、それが結局は、回りまわって、自分に降りかかってくると、みことばは警告するのです…。皆さんも、そういったような経験をお持ちではないでしょうか？つまり…、それが善であれ悪であれ…、自分の奥さんやご主人にしたようなことが、結局は、回り回って、自分のところに帰ってくるのです…。みことばが、ここで、はっきりと教えてくれていることは、夫婦とは、そのように、『一体』であり…、運命共同体なのです！

実は、ここ、エペソ 5:31 には、創世記 2:24 とよく似た教えが書かれています。『それゆえ、人はその父と母を離れ、妻と結ばれ、ふたりは一体となる。』⇒実は、ここエペソ 5:31 のみことばは、新改訳の第2版やリビングバイブルでは、「一体」ではなく、「一心同体」と訳されています。ここのみことばも…、また、創世記でも、共通して教えられてあることは、人は、その両親を離れて、夫婦…、つまり、一体となるということです。こういったことから、夫婦の関係というものは、親子関係以上に優先すべきものであるということが分かります。もちろん…、その内容や状況にもよるでしょうが…、私たちは、基本的に、親子関係よりも、夫婦の関係のことを重んじ、優先すべきなのではないでしょうか？

どうぞ、この 29 節をご覧ください。『だれも自分の身を憎んだ者はいません。かえって、これを養い育てます。』とあります。皆さん、気付いてくださいます？ここでは、ただ単に、「養う」ではなくて…、『養い育てます』とありますでしょ？…実は、ここのみことばは、原語のギリシャ語を見ても、「養う」という言葉(ἐκτρέφω)と、「育てる」という意味の言葉(θάλπω)の、両方が続いているのです。

皆さん、ここで、少しおかしなことに気付かれませんか？…と言いますのは、このみことばは、クリスチャンの夫に対して、「その奥さんを愛しなさい！」と言われていたわけで…、当然、その奥さんは、ある程度、成熟しているはずなのです。親に対して、その子どもたちのことを「養い育てなさい」というのは訳が違うのです。…しかし、このことに関しても、私たちは、先程、もう既に学びました。クリスチャンの夫は、妻が、例え、成人していようと…、あるいは、子どもたちが手を離れていようと…、その妻や子どもたちのことを養うだけでなく…、霊的にも育て上げようと意識すべきなのです！

そのためには、まず、家庭の長である夫が、しっかりとビジョンをもって、家庭を導いていくことが必要です。当然、基本的には、一家の父親がリーダーシップをとって、経済的にも…、また、霊的にも家族を養い育てていくことが求められています…。正直言って、大変です。特に、最近では、ここ日本だけでなく…、世界的に、金融不安・不況というものが広がっています。そんな中で…、経済的に家族を養っていくだけでも大変です。特に…、ここ日本にあつては、普段、ご主人は家庭を養うために働きに出て行って、その代わりにと言うべきではありませんが…、奥さんが家庭や子どもをケアする…というのが、一般的であると思われるかも知れません。しかし、聖書は、そうは教えません！クリスチャンの夫は、経済的にも…、また、霊的にも、家族をリードしていくべき存在なのです…。

●みことばを实践する 秘訣 とは？

ここエペソ 5 章後半のみことばで、神様は、クリスチャンの奥さんに対しては、「夫に従う者であれ！」と教えていました…。片や、クリスチャンの夫に対しては、「妻を神の愛で愛する者であれ！」と教えます…。一見、正反対のように映るかも知れませんが、実は、そうではありません…。妻はご主人を“優先”し…、ご主人も奥さんを大事にし、“優先”していくのです。つまりは、奥さんも…、また、ご主人も…、自分よりも、相手側のパートナーを尊重し、大事にし、優先していこうとするのです。…と言いますのも、それこそが、私たちクリスチャンの基本姿勢じゃないですか？…そういう意味においては、夫への教えも…、また、妻への教えも非常に似通っている、と言い得るのです…。

でも、実際のところはいかがでしょう？…ここまで、私たちは、何回かに渡って、クリスチャンの妻であろうと…、あるいは、夫であろうと…、イエスを模範として歩いていくべきことを学びました。しかし、果たして、そんなことが可能なのでしょうか？先週のメッセージでも学んだ通り、私たち人間の力では、そういったことは、到底、不可能なのです…。

でも、私たちクリスチャンになら、実は、そういったことが可能なのです。…と言いますのも、私たちはもう既に、その方法を学んでおります…。皆さん、覚えてくださっています？…先週からの持ち越し事項ですが、私たちは、一体どうしたら、神様のみこころを知って…、そのみこころを実践していけるのでしょうか？⇒そのカギは、エペソ 5:18-21 の教えです。そこには、このように記されています。『18 また、酒に酔ってははいけません。そこには放蕩があるからです。御霊に満たされなさい。19 詩と賛美と霊の歌とをもって、互いに語り、主に向かって、心から歌い、また賛美しなさい。20 いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエスキリストの名によって父なる神に感謝しなさい。21 キリストを恐れ尊んで、互いに従いなさい。』

このように、私たちが御霊に満たされて…、毎日歩んでいくなら、そこに、不可能はありません！…でしょ！…と言いますのは、御霊なる神もまた、当然、あの三位一体の神様であり…、聖霊なる神様もまた、全知全能だからです。ですから、もしも、私たちが、その聖霊なる神様により頼んで…、その聖霊に満たされて歩んでいくなら、どんなみことばだって、どんな教えだって、不可能ではありません！

<励ましの言葉>

皆さん、覚えておられますか？…御霊に満たされていたから、あのペンテコステの日、皆は外国語で話すことができ(使徒 2:4)…、それを見た大勢の者たちが救われることができたのです(使徒 2:41)！…また、御霊に満たされていたから、あのバプテスマのヨハネは、主の前に大きなことをなすことができたし(ルカ 1:15)…、御霊に満たされていたから、ペテロやステパノは(使徒 4:8、7:55)、相手が誰であろうと恐れることなく…、大胆に、主のみことばを語る事ができたのです。御霊に満たされたから、パウロ(使徒 13:9)や初代教会のクリスチャンたちもまた(使徒 13:52)、大胆に、主のみことばを語って、それを通して、どんどん、救われる人たちが起こされていったのです！

このように…、天の神様は、私や皆さんの成長に必要なものを、実は、もう既に与えてくださっています。…まず、1つは、私たちのことを内側から助けてくださる「助け主なる聖霊」です。かつて、旧約の時代、聖霊なる神様は、今の時代のように、すべての信者たちを助けるようには働いていてくれませんでした…。これは、「教会の時代」に生きる、私たちクリスチャンだけの…、ある意味、特権です。そして、もう1つは、(聖書を持ち上げて)この「聖書のみことば」です！旧約の時代、神様からの啓示というものは、まだまだ、未完成で、完成していませんでした。…しかし、今の時代、私たちに必要なみことばは、すべて、この聖書に書き記されています！だから、私たちは、この聖書のみことばを、一切、削ることも足すこともすべきでは無いのです(黙示録 22:18-19)！

神様からの啓示は、もう、この聖書だけで十分なのです！…でも、だからこそ、問題は、今度、私であり…、また、皆さんなのです。私や皆さんが、どれほど、真剣に、御霊に満たされて歩んでいこうとされるかどうかなのです…。

少し前(2023/02/12)の礼拝で学んだように、「聖霊に満たされる」とは、私たちの人格のすべてが、聖霊によって支配されるようなことでした…。そのために必要なことは、神様の示してくださった、みこころに対して、皆さんが、どれほど、自分のことを沿わせていかれるかです。それこそ、神様にすべてをお委ねすることであり…、その時に、御霊は皆さんのことを満たしていつてくださるのです。

その結果として…、つまり、私たちが御霊に満たされた結果として…、私たちの内には、その 2/13 にも学んだように、①絶えることのない、神様への賛美と…、②消えることのない、神様への感謝…、③そして、

神様と人に対する模範的な従順とが与えられていくのです。…どうか、私や皆さんが、この聖霊に満たされていく者となって、ますます、この神様の栄光を現わしていけることを願います。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。